

学校名:

気管支ぜん息用 学校生活管理指導表

提出日 年 月 日

児童・生徒氏名() 【男・女】	年 月 日生 (歳)	年 組
------------------	-------------	-----

★学校における日常の取り組み及び緊急時の対応に活用するため、本表に記載された内容を全教職員及び消防機関・医療機関等と共有することに、同意します。
保護者署名 ()

緊急時連絡先 * 連絡医療機関は、主治医と相談のうえで記載してください。(「救急車要請」と記載することも可。)

★ 第1連絡者 氏名	電話	続柄()	第2連絡者 氏名	電話	続柄()
★ 医療機関 名称	電話				

※ 以下は主治医（医療機関）におかれまして、現在の状況及び今後1年間を通じて予測される状況等の記載をお願いします。

主治医氏名 () (印) 医療機関の名称()		記載日 年 月 日
病型・治療	※ガイドラインP50～55参照	学校生活上の留意点 ※ガイドラインP56～60参照
A. 症状のコントロール状態		A. 運動（体育・部活動等） ※ 記入にあたっては、裏面参照
1. 良好		1. 管理不要 2. 管理必要
2. 比較的良好		B. 動物との接触やホコリ等の舞う環境での活動
3. 不良		1. 管理不要 2. 管理必要
B-1. 長期管理薬（吸入）	薬剤名 投与量／日	C. 宿泊を伴う校外活動
1. ステロイド吸入薬	() ()	1. 管理不要 2. 管理必要
2. ステロイド吸入薬／長時間作用性吸入ベータ刺激薬配合剤	() ()	D. その他の配慮・管理事項（自由記載）
3. その他	() ()	
B-2. 長期管理薬（内服）	薬剤名	
1. ロイコトリエン受容体拮抗薬	()	
2. その他	()	
B-3. 長期管理薬（注射）	薬剤名	
1. 生物学的製剤	()	
C. 発作時の対応	薬剤名 投与量／日	
1. ベータ刺激薬吸入	() ()	
2. ベータ刺激薬内服	() ()	

※管理指導表は症状等に変化がない場合であっても、配慮や管理が必要な間は、少なくとも毎年提出してください。

静岡県医師会子どものアレルギー疾患対策委員会(2020年11月)

学校生活上の留意点欄「A. 運動(体育・部活動等)」欄について

※(財)日本学校保健会発行「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」(令和元年度改訂)より抜粋 (※P56～57)

■運動に関する管理

「1. 管理不要」とされた場合

基本的には特段の配慮の必要はありません。児童生徒等にとって、運動は心肺機能を高め、積極性を育むなど、心と体の成長のために重要な意味を持っています。このためぜん息があっても、むしろ一律な運動制限をしないことも重要です。しかし「管理不要」と指示されていても、本人の訴えや症状によっては対応する必要がありますので、急性増悪（発作）が誘発されやすい運動時（冬季の長距離走、強度の強い運動）には注意が必要です。

「2. 管理必要」とされた場合

運動誘発ぜん息の予防には、運動前の十分なウォーミングアップに効果があります。また薬剤を事前に吸入や内服することで予防できる場合があります。

もし、運動中に急性増悪（発作）が出現した場合は、速やかに運動を止め、急性増悪（発作）の程度に応じた対応が必要です。このため児童生徒等には苦しくなったら担任に申し出るよう指導してください。安静等により急性増悪（発作）が治まれば、軽い運動であれば再開しても構いません。また、軽い急性増悪（発作）で体育を見学する場合に、周囲から「さぼっている」と思われることがあります。このため、記録係や審判など運動以外で体育に参加させるとともに、他の児童生徒等の理解を得る担任からの「理解ある一言」が重要です。

学校での取組を具体的に行うため、さらに詳細な情報が必要になります。そこで、以下のような追加調査票を通じて、関係する教職員と保護者・本人との間で急性増悪（発作）が起こりやすい状況や体育見学の基準などについて確認しておきましょう。

一般的に急性増悪（発作）は強い運動で誘発されるため、運動強度によって参加できる運動と参加できない運動がある場合があります。具体的にどのような運動を避けるかを話し合っておきましょう。

また、この場合、体育の見学が多くなりますので、見学時の学習内容を検討するとともに、評価に対する配慮も必要です。さらに、運動などでしばしば急性増悪（発作）を起こす、いつまでも体育に参加ができない児童生徒等は、適切な治療を受けていない可能性があります。治療の見直しなどを保護者に促すことも検討してください。

■追加調査票の例

- ① 急性増悪(発作)が起こりやすい運動がありますか？
- ② 急性増悪(発作)の起こりやすい季節・天候がありますか？
- ③ 見学の判断基準は？
- 特定の運動は見学（例 長距離走、マット運動）
- 授業前の本人の申告で判断
- 日々の急性増悪(発作)の状況で判断
- ④ 急性増悪(発作)予防で使用している薬がありますか？
- はい（ ））、いいえ（ ）
- ⑤ 運動中、急性増悪(発作)が起きた時の対処法
- （ ）